



世界の舞台上 スタンディング・オベーション 音楽学部のない大学の“音楽への挑戦”

早稲田大学交響楽団



部員一人一人が各学部を専攻する大学生。元NHK交響楽団コントラバス奏者の田中雅彦氏の指導による週3回の合奏練習と、個人およびパート練習によりハイレベルなオーケストラ音楽を作っている。

「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学交響楽団。大学公認のオーケストラで、構成は学生約300名、運営も学生のみで行われている。創立は1913年で、1927年にはモーツァルト交響曲第35番「ハフナー」の本邦初演、1970年にはストラヴィンスキーのバレエ音楽「春の祭典」のアマチュア世界初演など初演作品も数多く、来たる2013年には創立100周年を迎える。演奏活動は東京芸術劇場やサントリーホールでの定期演奏をはじめ、主催公演、入学式や卒業式での演奏、テレビ出演など幅広い。さらに1978年の国際青少年オーケストラ大会（通称カラヤンコンクール）の優勝以来、16ヶ国・70以上の都市で12回の海外演奏旅行を行った。

最近では2009年ヨーロッパツアーを敢行。最大規模の11公演を、ベルリン、ドレスデン、ザルツブルク、ウィーン、パリなど代表的な音楽都市で行い、それぞれヨーロッパ最高レベルの音楽ホールで演奏し、驚異的と高い評価を得た。

特に3月8日のベルリンのフィルハーモニー・ザール公演では、鳴り止まぬ拍手だけでなく、音楽家にとって最高の榮譽であるスタンディング・オベーションによって祝福され、元ドイツ連邦大統領ヴァイゼッカーをはじめ、専門家や新聞各紙によって絶賛された。「このコンサートはベルリンへの凱旋であり、その演奏水準は極めて高く、優秀なプロオーケストラに匹敵する。」「このような大学オーケストラは世界のどこを探してもほかにない。」「数多くの学部や学科のあるこの大学には音楽学科はない。彼らは全員音楽以外の専攻分野を持っていながら、音楽の理解と演奏技術のレベルは驚異的なものだ。」

また、公演はインターネット上のデジタル・コンサート・ホールで生中継された。これは本来ベルリン・フィルの定期演奏会だけを取り上げるものだが、ベルリン・フィル以外の団体として世界初の客演が実現したのである。

早稲田大学交響楽団は2012年の第13回海外公演、さらに2013年の創立100周年へ向け、「オーケストラとして常により良い音楽を求めていく」という理念のもとさらに研鑽を重ねている。

年4〜5回の演奏会を中心に、新入生歓迎パーティにおける演奏、外部団体へ向っての依頼演奏、テレビやラジオへの演奏出演など、一年を通して忙しくも充実した毎日を送っている。



Photo By Tetsuro Kanai

カラヤンコンクールでの優勝以来、交流の深かったヘルベルト・フォン・カラヤンの墓前で演奏する生徒たち。(オーストリア ザルツブルク)



Photo By Tetsuro Kanai



Photo By Tetsuro Kanai

2006年の公演に続き、2009年公演でもスタンディング・オベーションで讃えられた。(ドイツ ベルリン)

右上：ムジークフェラインザール公演(オーストリア ウィーン)
右下：フィルハーモニーザール公演(ドイツ ベルリン)
[2009年ヨーロッパツアーより]



早稲田大学交響楽団

部 室 学生会館地下1階 B133
事 務 所 東京都新宿区西早稲田
2-1-17 酒井ビルB1
創 立 1913年
総団員数 290人(2010年4月現在)
活動内容 定期演奏会(国内) 189回
海外演奏旅行 12回
海外公演地 16ヶ国75都市
海外公演数 131公演
電話番号 03-3204-3585
<http://www.wso-tokyo.jp/>